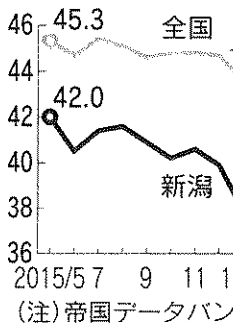


県内の景気DIは
が続いている



企業次の一手

石油の販売などを手掛ける丸新(新潟市、石黒義久社長)は、農業から洗浄装置まで活用の可能性が広がる超微細泡(ナノバブル)の発生装置の製造・販売を4月に始めた。ナノバブルに酸素や窒素を溶解した水は、農産物の成長促進や水産物の鮮度保存への活用が期待される。丸新グループの物流部門を生かし、ナノバブルを活用した魚の鮮度実験も実施する。主力のエネルギー事業などの成長が鈍化する中、新事業を収益の柱に育てる。

ナノバブルはナノ(10億

た。景気DIは企業に景気が「非常に良い」から「非常に悪い」まで7

と0.2ポイント低下したほか、中小企業も36.0と0.1ポイント低下した。業種別では8業種(農林水産を除く)のうち4業種で低下した。製造は

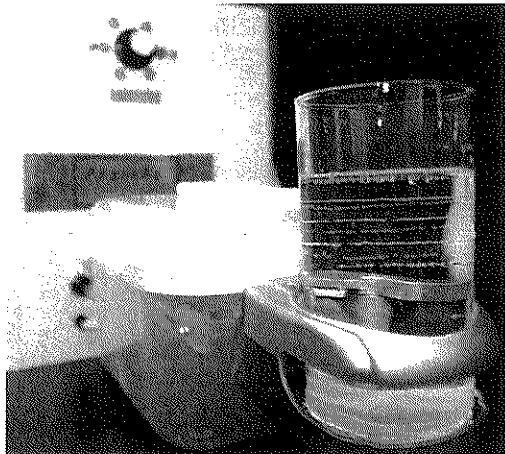
上越市は2018年春の開館を目指す新たな水族博物館を着工した。鉄筋コンクリート地上3階建ての施設を既存の水族博物館の隣接地に設置す

る。総投資額は約113億円。現在は夏の集客が中心だが、屋内展示を充実させて通年型施設とする。展示する生物の種類や点数は検討中だが「既存施設の約400種1万

面積は2割増の約8400平方メートル、展示水量は4割増の約3100トンとなる。展示する生物の種類や点数は検討中だが「既存施設の約400種1万

東京電力福島第一原子炉心溶融公

ナノバブル水は農産物の成長促進などに活用が期待される



新丸

ナノバブル、実験加速

分の1)のサイズの気泡で、水中に溶け込ませると通常の気泡よりも長い期間、水中にとどまる性質を持つ。この特徴を生かし、窒素や酸素などを溶解したナノバブルを発生させた水を農業

や水産業で活用する動きが広がっている。例えば、窒素などを溶解したナノバブル水は鮮魚の酸化と細菌増殖を防止し、1週間ほど鮮度を保つことができるという。酸素を溶

工の板垣金属(三条市)に委託した。装置の機能を絞ることでも既に販売されている他社製品の半値ほどに抑えたことから、石黒社長は「後発組だが、価格面で優

位に立てる」と話す。ナノバブルの効果を生かした洗浄装置の開発も始めた。ナノバブルは消滅時に放出するエネルギーで便器の尿石を除去できる効果もある。洗浄装置に活用できれば洗剤を使う必要がないことから、環境に優しいという利点がある。丸新グル

ープが新潟県内で展開するも生かす。農作物の生産者ガソリンスタンドのトイレの洗浄に活用するなどして、装置の開発に取り組み。政府は農林水産業の競争力を向上する目的で、新技術を活用した農業のイノベーションを推進している。ナノバブルなどの基盤技術の研究開発もその一つだ。経済産業省によると、ナノバブルの世界の市場規模は2020年に4兆円、30年に13兆円になる見込みだ。

新潟

新潟支局 025-222-1754
長岡支局 0258-37-1000

(大鐘進之祐)